

5月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

5月のテーマ：発達障害について

発達障害は、脳機能の発達が関係する障害で知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害、協調運動障害、トゥレット症候群、吃音などが含まれます。

＊知的障害：知的指数（IQ）、日常生活での自立機能・運動機能・探索機能・移動・生活文化・職業の到達水準が総合的に同年齢に比べ低水準です。

＊広汎性発達障害（自閉症・アスペルガー症候群）：言葉の発達の遅れ（遅れない場合もある）、コミュニケーションの障害、対人関係・社会性の障害、パターン化した行動、こだわり、興味、関心事のかたより、不器用などが見られます。

＊注意欠如・多動性障害：不注意（集中できない）、多動・多弁（じっとしてられない）、衝動的に行動する（考えるより先に動く）などが見られます。

＊学習障害：読む、書く、計算する等の能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手として現れます。

＊協調運動障害：知的発達の遅れはなく、筋肉や神経、視覚、聴覚などの異常も認められませんが不正確であったり、時間がかかったり、いわゆる不器用な状態が見られます。

＊トゥレット症候群：運動チック、音声チックが1年以上わたって続く重症系のチック障害で本人がそうするつもりがないのに出てしまうのが特徴です。

幼稚園、保育園、小学校で生活して行くためには社会性やコミュニケーションが必要になります。集団の中では様々な問題や困り事に直面します。障害を持つ子どもの理解、サポートがされないと、いじめの対象になったり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる可能性があります。政府広報オンラインの早期の気づきのポイントを紹介します。

＊人との関わり方：一人遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい、おとなしすぎる、常に受動的、大人や年上の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊



べない。

*コミュニケーション：話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い。おしゃべりだが、保育士や指導員の指示が伝わりにくい。話を聞かなければならない場面で席を離れてしまうことが多い、聞いていない。

*イマジネーション・想像性：相手にとって失礼なことや相手が傷つくことを言うしまう。

友だちがふざけてやっていることを取り違えて、いじめられたと思ってしまう。集団で何かしている時にボーッとしていたり、ふらふらと歩いていたりする。急な予定変更事に不安や混乱したようすがみられる。

*注意・集中：一つのことに没頭すると話しかけても聞いていない。落ち着きがない。集中力がない。いつもぼんやりしている。忘れ物が多い、毎日のことなのに支度や片づけができない。

*感覚：ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手。靴下をいつも脱いでしまう。同じ洋服でないとダメ、手をつなぎたがらない。極端な偏食がみられる。揺れている所を極端に怖がる。すき間など狭い空間を好む。

*運動：身体がクニャクニャとしていることが多い。床に寝転がることが多い。極端に不器用、絵やひらがなを書く時に筆圧が弱い。食べこぼしが多い。運動の調整が苦手で乱暴に思われてしまう。大きすぎる声を出すことが多い。

*学習：話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い。難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書けない。図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手。

*情緒・感情：極端な怖がり、ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい。思い通りにならないとパニックになり、一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない。

以上のような気になる行動・反応に気づいたら、かかりつけ医、保育士、担任教諭、保健センター等の相談員の指導を受けましょう。また、適当な療育につなぐことで、園、学校等の生活に適應する能力を身につけ、様々な能力を伸ばしていくことができます。

